

令和7年度 OPEN CAMPUS 模擬授業 一覧

【文学部 歴史文化学科】

総合型選抜入試を考えてない方も、もちろん大歓迎！
ぜひ学科の学びを体験してください！

学部・学科	開催日程	担当教員	授 業 内 容
文学部 歴史文化学科	5/25(日)	岩田真美 教授	ジェンダーで学ぶ宗教と文化 ジェンダーとは、社会や文化のなかで形作られてきた性差を指します。その形成過程には、日本の歴史においては「神」や「仏」の名のもとに宗教も大きな影響を与えてきたといえるでしょう。私たちの認識をひも解きながら、身近な課題から、宗教や文化、ジェンダーについて考えることでグローバルな視野を育みましょう。
	6/22(日)	竹本晃 准教授	飛鳥時代の文字文化 飛鳥時代に書かれていた文字には、今の常用漢字とはちょっと違うけれども、まあアリかなという文字をよく見かけます。ちょうど中国から日本に入ってきて、日本人が仕事で漢字を使い出したばかりの頃ですから、一つの文字をとっても、字形や使い方が今とは微妙に違いました。それを知って、皆さんが納得できるかできないか、いっしょに日本国家形成期の飛鳥時代を考えます。
	7/19(土)	高志緑 専任講師	不思議なかたちを読み解く ー東洋の七夕まつりー 日本の夏の風物詩でもある七夕まつり。しかし、昔の七夕まつりは現代のようなまつりではなかったことが、絵画資料の読み解きから分かります。昔の人は夜空の星に、何を願ったのでしょうか。糸や楽器、水を張ったたらいに、スイカまで…江戸時代までに共有されていた七夕まつりの多彩な表現を紹介し、東洋に共有されていた思想文化の厚みを実感していただければ幸いです。
	7/20(日)	犬木努 教授	イヌとネコの考古学 ー動物考古学入門ー 考古学には「動物考古学」という分野があり、遺跡から出土した動物骨等を用いて、原始・古代社会におけるヒトと動物の関わりを研究しています。「動物考古学」はヒトと関わりをもっていた全ての動物を対象としますが、今回は、最新の考古資料を用いて、日本列島におけるイヌとネコの歴史を探ります。“イヌ派”の人も“ネコ派”の人もぜひ聴きにきてください。
	8/8(金)	今井澄子 教授	憤怒、強欲、暴食… ーボスの《七つの大罪》を読みとくー 《七つの大罪》は、16世紀初め頃にネーデルラントで活躍した画家ヒエロニムス・ボスが描いた絵画です。飲食物を詰め込む人々や、骨をめぐって争う犬などのユーモラスな描写が面白い作品ですが、実はこの絵画には、罪をめぐるキリスト教的な教訓も込められています。授業では、《七つの大罪》の細部を觀賞しながら、背後にあるヨーロッパの歴史・文化を探ってみたいと思います。
	8/9(土)	伊藤大貴 専任講師	皇族が見た室町時代の社会と噂話 室町時代の皇族・伏見宮貞成親王は諸般の事情により貧乏になった宮家の出身で京都に住むことができず、伏見に移り住んでいました。ただ、ありがたいことに彼は非常に好奇心が旺盛な人物であり、身の回りのありとあらゆる細かな情報を日記に書き残しています。今回は一人の皇族が見聞きした室町時代の社会のあり様、とくにふつうの古文書ではわからない一風変わったお話を取り上げてみたいと思います。